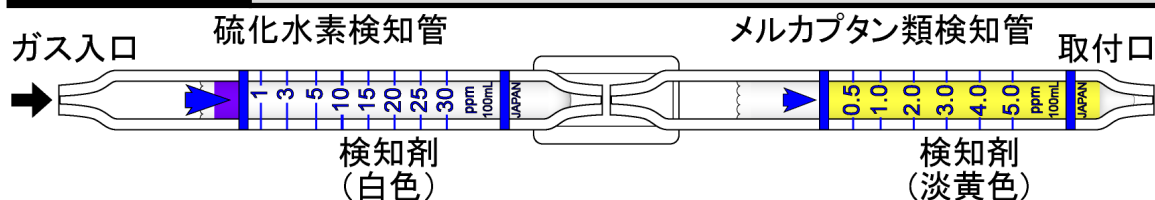


282S

硫化水素・メルカプタン類^{※1}

仕様

	H ₂ S	R·SH
測定範囲	1～30ppm	0.5～5ppm(印刷目盛 ^{※2})
試料採取量	100mL	
測定時間	3分間	
検知限度	0.2ppm	-
色の変化	白色→薄茶色	淡黄色→桃色
反応原理	H ₂ S: 酢酸鉛と反応して硫化鉛が生成する。 R·SH: 銀化合物と反応して酸性物質が発生し、指示薬が変色する。	
有効期限	2年(冷蔵庫保存, 0～10℃)	
経年変化	硫化水素, メルカプタン類検知管共に変色層の境界が不明瞭になり、指示が高くなる。	
使用温度範囲	0～40℃(温度の影響なし)	
湿度の影響	H ₂ S : なし R·SH: 湿度補正有り(0～80%RH)	
校正方法	H ₂ S 高圧ガス容器詰の標準ガス R·SH: 高圧ガス容器詰の標準ガス	

他のガスの影響

ガス名	濃度 [ppm]	影響
硫化水素検知管		
二酸化硫黄	硫化水素濃度の1/3倍以上	境界が不明瞭になり指示が高くなる
二酸化窒素	硫化水素濃度の1/5倍以上	指示が低くなる
メルカプタン類検知管		
二酸化窒素	1	指示が低くなる
アンモニア	1	ガス入口側が退色し指示が低くなる
硫化水素	30 硫化水素検知管が破過した場合	指示が高くなる

^{※1} 硫化水素・メルカプタン類検知管は、硫化水素検知管とメルカプタン類検知管を接続し、硫化水素とメルカプタン濃度を同時に分離、測定する。

^{※2} メルカプタン類検知管ではメルチメルカプタン、エチルメルカプタン、イソプロピルメルカプタン、n-プロピルメルカプタンおよびtert-ブチルメルカプタンの測定ができる。印刷目盛りは0.5～5ppmとなっているが、測定範囲はガス種によって異なり、また湿度補正が必要とされる。なお、50%RHにおける各ガスの測定範囲は以下の通りである。

メルチメルカプタン: 0.5～5.5ppm

エチルメルカプタン: 0.6～5.9ppm

イソプロピルメルカプタン: 0.7～6.8ppm

n-プロピルメルカプタン: 0.9～8.5ppm

tert-ブチルメルカプタン: 0.8～7.6ppm